

小学5年の社会の授業で調べ学習のサポートに入る
伊予高生(右から2人目)



教育現場のリアル 体験

教員や保育士目指す伊予高生51人

将来教員や保育士などを志望する伊予高校(松前町北黒田)の生徒が小学校のリアルな現場を知る教育体験が1日、伊予市双海町高岸の由並小学校などであった。1、3年の希望者51人が、授業参加などを通して仕事のやりがいや子どもとの関わり方を学んだ。

伊予高は県内で初めて「教員養成コース」を設けることも狙いの一つという。

来年の2年生から本格的に開講する授業の一部を2025年度からプレ事業として実施している。今回は松前町の岡田、松前の両小にも協力を得た。

全校児童35人の由並小は2学年ずつの複式学級。伊予高によると、さまざまな学校事情に触れる意味を教えるなど助言

小学校の授業参加 児童との関わり方学ぶ

していた。教員の授業の工夫や声かけの仕方をじかに学び、最新の学習道具にも驚いた様子だった。

休み時間には、児童と腕相撲で盛り上がった。高校生の来校機会は少なく、5年武田幸志郎さん(10)は「高校生は教えるのがうまくて分かりやすく、とても接しやすかった」と笑顔を見せた。

伊予市の大規模校で育ったという竹田悠人さん(17)は「複式学級ならではの授業の工夫を感じた。最初は幼稚園教諭を志望していたが、体験することで視野が広がる」と充実した様子だった。(石川美咲)